

公益財団法人東京都保健医療公社  
多摩南部地域病院  
救急搬送受入体制を再構築



断らない病院をめざし体制整備  
職員の意識改革で応需率上昇

公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院は、院長・副院長が率先して病院総合診療認定医を取得し、ER型の救急医療体制を構築。受け入れのルールも整備し、救急搬送受入件数・応需率ともにV字回復を達成している。

医師をはじめ職員全員に断らない救急が浸透している

トップ層が率先して認定医取得  
総合診療の救急をけん引

東京都多摩市において、がん治療と救急医療を柱に地域の急性期医療を担っている公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院。同院は1998年に東京都で最も早く地域医療支援病院の認定を取得した経歴をもつように、従来から紹介・逆紹介による予定入院が中心だった。一方で、救急搬送受入については応需率が6割程度にとどまっておらず、救急隊からの要請件数自体は年々減少していた。

「がん診療など予定入院へ重心が傾りすぎてしまい、結果として救急医療が疎かになっていました。要請件数の減少は、救急隊から頼りにされていないということであり、危機感を覚えました。また、地域からは在宅医療患者のサブアキユートを抱う病床が不足しているという声もあり、早急に救急体制の再構築に取り組みました」と和智明彦院長は話す。

同院が位置する多摩市は東京都でも高齢化が進んでいる地域であり、高齢者救急のニーズが高い。



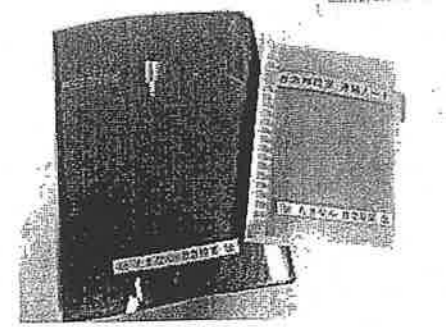
和智明彦院長

近隣には3次救急を担う大学附属病院もあるため、同院では合併症をもつ高齢者患者の救急受け入れ強化をめざした。

はじめに取り組んだのが、適切な初期対応を行うための日本病院総合診療医学会の認定医の資格取得の推進だ。「救急専門医の充実も考えましたが、限られた人材で予後経過も継続して診ることを考えると、総合診療のほうに当院の求める役割を果たせると判断しました」と和智院長。院内に運営方針を明確に示すために、和智院長のほか副院長2人が認定医を取得。トップ層自らが率先して方針を体現したことで、職員にもその熱が伝わり、現在では計8人の医師が認定医となっている。また、総合診療の環境を整備したうえで、聖マリアンナ医科大学総合診療科

に医師の派遣も要請。救急外来専従の医師2人と入院対応を行う常勤医1人が新たに配置され、マンパワーが充実した。

次に、総合診療的な観点から救急医療を強化していくためには医師間の垣根をなくすことが重要だ。という和智院長の思いから、消化器内科と外科合同の腹部消化器救急チームを創設。また、内視鏡も内科・外科を合わせてセンター化し、病棟も混合病棟として運営していた一部を消化器病棟として別立てた。回診は内科・外科問わず担当を振り分け、カンファレンスも合同で行っている。



「連絡ノート」は救急隊との貴重なコミュニケーションツールになっている

当初はとまどいも見られました。が、医師間でのコミュニケーションも活性化し、より風通しの良い組織になりました」と和智院長は「たまなんルール」を策定し受け入れる文化を浸透

組織体制に加えて、救急搬送受入のフローも見直した。各診療科が別の患者対応などによって受け入れが困難だったり、認定医から担当医への引き継ぎが難しい場合、院長・副院長が担当医の引き継ぎまでフォローする「たまなんルール」を整備。また、それでも受け入れできずに断った症例については毎日、和智院長がチェックし、その理由について担当医に問い合わせている。

「開始当初は私や副院長を呼び出す電話がよく鳴っていました。が、取り組みを続けるうちに、『院長・副院長の手を煩わせないで頑張ろう』と院内全体で受け入れに対して積極的になってきました。この職員の意識改革が大きな成果でした」と和智院長は力を込める。そのほか、救急看護士の認定資格取得支援や救急隊との連携強化策として、救急搬送受入室の設置な

ども行った。控え室には、「連絡ノート」として受け入れについての感想・要望などを聴取する仕組みをつくった。

これらの取り組みにより、応需率は2年続けて上昇。年間3400件ほどに落ち込んでいた救急隊の要請件数はV字回復し、16年度は約4000件。救急搬送受入件数は14年度2235件から16年度は3032件へと大きく伸びている。

「救急医療を立て直したことで、予約入院の割合も増加しています。『断らない病院』として地域住民や医療機関の信頼を得ることができています」と和智院長は微笑む。

今後は、総合診療のさらなる充実を図るとともに、より重症度の高い救急患者の受け入れもめざす。また、在宅療養後方支援体制も強化していく予定だ。

「当院はがん治療にも注力しており、緩和救急など在宅医療の患者さんの急性増悪の受け入れも積極的に取り組んでいます。今後ますますニーズが高まる在宅医療の支援体制も充実させ、『医療で地域を支える』という東京都保健医療公社の使命を果たしていきます」と和智院長

公益財団法人東京都保健医療公社  
多摩南部地域病院



1993年開設。救急医療とがん医療を柱に地域の急性期医療を支えている。1998年に東京都で初めて地域医療支援病院の認定を受け、以来、紹介率87.1%、逆紹介率74.5%(2016年度)と高い水準を維持し続けている。

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢2-1-2  
TEL：042-338-5111  
URL：http://www.tamanan-hp.com/  
病床数：277床(一般病床71入院基本科)  
診療科：内科、消化器内科、神経科、循環器内科、小児科、緩和ケア内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、口腔外科、放射線科、麻酔科、病理診断科  
職員数：385人(常勤医50人、2017年4月)  
救急搬送受入件数：3032件(2016年度)